

首相は『菅』か『橋本』か

～～～「KANプロジェクト」にご協力ください～～～

KANプロジェクト顧問 小俣一郎

◎投票の前に具体的な「選択肢」を

政党・議員の思惑により、選挙で託した思いがねじ曲げられていく。自社さ政権誕生以来の混乱が今の政治不信を生み出している最大の原因であると私は思います。

投票の前に各勢力が、4年間に何を行うのか、具体的に明確な「選択肢」を国民に提示し、当選後は政権として確実にそれを実行していく。今の不信感を払拭するには、そのような体制が確立する必要があるのではないのでしょうか。

◎小選挙区制は「首相選択選挙」に成り得るか？

衆議院は小選挙区制に変わりました。それは、日本のように多党化が進み、しかも自民党という巨大な第一党が存在する国では、普通に選挙すればそこが圧勝するという制度です。

しかし、野党が事前に政策協定を結び、首相候補まで決めて選挙に臨めば、野党連合が勝利する可能性もある制度であることを「96年のイタリア総選挙」は証明しました。つまり日本でも、野党が定数が1名であるという小選挙区制の特徴を理解し、共闘して、「首相を誰にするのか」「4年間にどのような政策を行うのか」といった選択肢を事前に国民の前に提示し、二者択一の選挙に持ち込むことができれば、政権を奪取する可能性があるわけです。

小選挙区制はやり方によっては、一番明確な選択、つまり「首相の選択ができる選挙」になる可能性を持っているのです。

◎大幅に改善された「一票の価値」

あまり騒がれてはいませんが、平成6年の政治改革では、小選挙区制導入の他にもう一つ、実に大きな問題点が劇的に改善されました。「一票の価値」の格差の縮小です。

昭和22年に定員466名で中選挙区制がスタートしたとき“1.51”倍だった一票の格差は、昭和60年には最高の“5.12”倍になりました。何回か改善はされましたが、それは選挙区間の格差を3倍以内に収めるための増員を主とした小手先のものに過ぎず、中選挙区制では抜本的な改革は行われませんでした。

それが小選挙区制移行に伴い、全面的な議員定数の見直し及び11名の減員が行われ、さらに比例区

が並立されました。その結果それまで歴然と存在していた都道府県レベルでの格差が大きく改善され、都市部の定数が大幅に増えたのです。これは、それまで一票の価値の不平等の上にあぐらをかいていた自民党にとっては実に不利な状況になったことを意味します。

◎幻の小沢首相？

では、先の総選挙の小選挙区ではなぜその傾向が現れなかったのでしょうか。

それは野党が選挙協力をしなかったため票が割れてしまったからです。例えば、もし小選挙区で新進党と民主党が共闘していたら、単純計算で、東京では実に24の議席を、全国レベルでも159の議席を獲得することができたのです。比例区を加えれば過半数を上回り、数の上では、小沢首相が誕生していた可能性もあったわけです。

◎菅なら勝てる！

しかし、小沢さんでは反自民勢力の首相候補にはなれなかったでしょう。では、誰を反自民の首相候補にすれば共闘が可能なのでしょうか。

やはり現時点では世論調査で「首相にしたい人」NO1の菅さんではないのでしょうか。4年後は分かりません。しかし今なら厚生大臣として官僚政治にメスを振るった、民主党の枠を超えて人気のある、菅さんしかいないと思います。

菅さんを反自民連合の首相候補とする合意ができたなら、勝てる要素は十分にあると思います。橋本さんでは選挙に勝てないと自民党が危機感を持ち、新しい首相候補が擁立されるといったことも考えられます。

そしてそのように、二大勢力による、実現性のある「首相選択選挙」＝「政権選択選挙」が行われるとき、日本の政治は変わるはずですが、自らの一票で首相が決められると分かれば、選択肢が明確になれば、投票率も必ず上がるはずですが。

☆

「KANプロジェクト」は、「菅直人を“私たちの首相候補”として指名する」運動を市民レベルで、政党の枠を超えて、全国展開し、「菅首相候補を現実のものにしよう」という運動なのです。

☆「KANプロジェクト特別委員会」が新設されました。《6月5日・運営会議》

現在、委員となって委員会活動に参加できる方、時間的に会議等には出席できないが、運動拡大協力員となって「KANプロジェクト」の情報を広めるたりすることならできる、という方のご協力を募っています。ご協力お待ちしております。

なお「KANプロジェクト・FAX運動」への参加方法等は、6月号・P11をご参照下さい。また、より詳しく内容を知りたいという方には、「KANプロジェクトニュース」等をお送り致します。

小俣一郎 〒187-0011 小平市鈴木町1-498-6 TEL&FAX 042-326-7229